

第6回洛陽市技術研修生帰国

1年間の研修を通じてそれぞれの専門知識を身に付け、黎蔚さんが昨年10月26日、陳励さんが今年2月10日に帰国されました。

れい い
黎 蔚

(岡山理科大学で研修)

私は第6回洛陽市技術研修生として、岡山理科大学情報工学科で勉強しました。先生のご指導のもとに、画像処理について研究しました。1年間の勉強を通して、学問の面でも、日本語の面でも、いくつか進歩がありました。

日本には、たくさんのお祭りがあり、私にはどれも新鮮で、特にお正月は、日本人と一緒に正月の飾り付けや餅つきなどをしました。大晦日には、除夜の鐘を聞きながら年越しそばを食べました。とてもおもしろかったです。時々、中国の餃子を作って御馳走したときには、皆食べながら日本のレストランで食べる餃子とは全然違うと言っていました。でも、本場の中国の餃子を食べることができておいしかったと言ってもらい、嬉しかったです。

また、日本人の友達と一緒に観光したときは、途中の景色を眺めながら、隣の人とおしゃべりをしたり、いろいろ経験し、生の日本語を覚えることができ、大変勉強になりました。

1年の研修を通して、交流して、私にとっていい思い出になりました。帰国してから日本で習った事を活用し、一生懸命頑張りたいと思っています。

研修中の黎蔚さん(右)
と陳励さん(下)



急病のため昨年7月に帰国された第6回洛陽市技術研修生の呉道修さんは、闘病生活を続けておりましたが、昨年11月22日死去されました。
ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

ちん れい
陳 励

(岡山市役所国際課で研修)

私は、洛陽市で生まれ育ちました。学生時代から、日本の富士山の雄大さ、桜の美しさ、岡山との友好交流などについてはよく知っていて、大いに憧れていました。そのせいか何故か初めて訪れた場所ではないような感じさえしていました。

岡山は条件的に恵まれた場所で、自然災害の心配が少ないのに加えて、美しい瀬戸内海、珍しい文化財の吉備史跡などが目を楽しませてくれます。中国の言葉で表すなら“風水宝地”と褒めるのも過言ではありません。また、お米や桃、マスカット、吉備団子などの美味しい名物が多くて、今でもその味を思い出すことができます。とても快適で暮らしやすい町だと感じました。

私の研修先は岡山市役所国際課です。一言で言えば、国際交流を促進する役割を担う窓口です。私は、毎日の研修の中で、職員の皆さんが普段どのように仕事をしているか、実際にこの目で見ながら、実務上の人とのやりとりを積み重ねて、自分の能力として身に付けることができました。また、同時に日本語と日本文化、風俗、習慣などの学習もできました。国際課の皆さんはとても親切で、私が勉強などで困った時には熱心にアドバイスや励ましをくださり、非常にいい体験をしたと思います。また、皆さんが仕事をまじめに、着実に進め、職場を大切にしている様子が印象深かったです。特に、外国人が早く日本の生活に慣れるように日本の文化、習慣などの紹介をしたり、外国人と市民が家族のように交流できるように、ボランティアシステムを設立したり、音楽祭、国際交流祭などを開催して、国際交流の意識を強める努力をしていることに非常に感心しています。

私は地元の人との触れ合いの中で、たくさんのお友達ができ、一緒にドライブをしたり、歌の練習をしたり、料理をつくって交流をするなど、いい思い出を作りながら楽しくいろいろなことを学び、充実した1年を送ることができました。

帰国後は、日本で勉強したことを生かして、洛陽市と岡山市の友好関係事業のために頑張ろうと思っていますので、皆様にはこれからもどうかよろしくお祈り申し上げます。

最後になりますが両市の友好の輪が、より強く、大きくなることと、岡山市のご発展を心よりお祈りいたします。

第3回岡山市技術研修生帰国

昨年4月から1年間、洛陽市で中国語研修を終えた第3回目の研修生3名が、今年3月元気に帰国されました。洛陽市での1年間の思い出を寄稿していただきました。

石下景教

高校生による友好交流活動を推進したい——
そんな思いを胸に、私は4月洛陽へ向かった。

夏期休業中、洛陽市外事弁公室(国際交流課)に、市内の高校についての情報を提供して頂き、唯一中学・高校を通して日本語教育を行っている学校を知った。その日から同校へ何度足を運んだ事だろう。校門をくぐるたび、私の勤務校関西高校の生徒たちが洛陽を訪れる日を想像した。同校に友好校縁組を申し入れたのである。一人で中国人社会に飛び込み、拙い中国語での交渉は、勇気と根気が必要だったが、「ここが正念場だ」と自分に言い聞かせ、がんばった。

現在、すでに両校は友好校として交流活動を展開している。昨年12月、両校あわせて100名の生徒が、手紙で「初めまして」のあいさつをかわし、交流の第一歩を踏み出した。今後、文化・学術交流のほか、スポーツ交流、ホームステイなどの実施に期待が高まっている。

帰国後も友好交流活動のパイプライン役をライフワークとし、岡山市の国際交流事業に寄与すべく努力していきたい。



洛陽市外事弁公室主催の元旦パーティにて
左から井上さん、桑山さん、石下さん



洛陽工学院のクリスマスパーティにて

井上夏実

今回の洛陽での研修は、私にとって中国語の習得はもちろん、実際に現地で生活し、現地の人たちと交流することによって、身をもって文化や人々の生活、価値観を知ることができた貴重な1年でした。また、中国を知ることによって日本を見つめ直せたのだと思います。中国人の友人に、日本人は「ありがとう」や「ごめんなさい」を言いすぎると怒られたりしながら、日本にいたときは気付かなかった自分の日本人らしい一面に苦笑することもたびたびでした。深く知り合った友人を家族同然に扱う中国人の人の交わり方は、「親しき仲にも礼儀あり」の社会で育った私には、最初こそばゆいものでしたが、同時に家族と離れ外国で暮らす寂しさを忘れさせてくれるほど暖かいものでした。多くの人に教えられ、助けられ、無事研修を終えることができただけでなく、戦後50周年という節目の年に中国(洛陽)で生活し、色々な事を学び感じることができたのは本当に幸運だったと思っています。

桑山文華

この1年、大変多くの人に出会うことができました。学校の先生、留学生のみんなはもちろんのこと、わが子同然のようにかわいがってくれた方々、偶然汽車で一緒になった人たち、私にとって彼らとの出会いは生涯忘れることのできない思い出です。どんなときも、彼らに励まされ、支えられ、異国での様々な困難を乗り越えることができました。どんなに感謝してもしきれません。

また95年は戦後50周年に当たり、各地で様々なイベントが行われていました。その中、私は当時満州国のあった東北地方を旅行しました。博物館では当時の様子を展示していましたが、現地の子供たちが真面目な面もちで見入っていたのがとても印象的でした。私たち若い世代が過去の悲しい出来事を知った上で、真の日中友好を深めていくことは、とても重要なことだと思います。そして、私が、少しでもそのお役にたてれば、と思っています。

第7回

洛陽市技術研修生来岡

洛陽市から、第7回目の技術研修生として、昨年11月に2名、今年2月に1名来岡されました。現在、それぞれの専門分野で毎日研修に励んでいます。

氏名 韓 建海 (かん けんかい)
職業 洛陽工学院機械工学部講師
研修先 岡山理科大学工学部

氏名 周 志立 (しゅう しりつ)
職業 洛陽工学院助教授・車両研究室主任
研修先 岡山理科大学工学部

氏名 曹 培紅 (そう ばいこう)
職業 洛陽市人民政府外事弁公室日本語通訳担当
研修先 岡山市総務局生活文化部国際課



京都・大阪を視察した洛陽市技術研修生
写真左から韓建海さん、曹培紅さん、周志立さん



一緒に視察をした第2回アジア奨学生と

第4回

岡山市技術研修生派遣

洛陽市へ派遣する第4回目の技術研修生が、17名の応募者の中から3名決定しました。3名は洛陽市内の大学で中国語の語学研修を受けるとともに、友好親善大使としても活躍していただきます。皆さん1年間頑張ってください！



岡山大学文学部史学科在学中
黒岩 真里子

帰国後は、岡山市国際交流協議会の主催する国際交流事業に参加し、岡山市と洛陽市の橋渡しをしたいと思っています。又、機会があればホームステイなどで、中国の方々に日本の理解を深めていただきたいとも思っています。卒業後は、岡山に残りますので国際交流の手助けとなれるような仕事に就きたいと思っています。



岡山大学文学部文学科在学中
高橋 伊知子

洛陽への1年間の研修後は、やはり研修中に身につけるであろう中国語を生かして、中国からの留学生を支援する活動などに参加したいと思います。洛陽で身につけた中国の文化、大学生活、生活習慣は彼らのことを理解するのに有利であろうし、私のほうも日本の大学に在学する一学生として彼らの必要な情報を提供することが出来ると思います。また、大学卒業後も研修を生かせるような職業に就き、洛陽の文化、風土を岡山に紹介し、日本、岡山の文化、風土を中国、洛陽に紹介するような活動に常に関わってゆきたいと考えています。



就実女子大学文学部史学科卒業
藤原 恭子

現在もより多くの人に私を通して中国へ視野を向けて欲しいと思っているのだが、帰国後は、語学面だけでなく、その場に行き、生活したからこそ肌で実感することができたものを、より多くの人に伝えるため日本語教師やボランティア通訳、また岡山の中国語学習者のために少しでも多くのニーズに応えていきたいと考えている。

友好交流サロン

語学講座は「中国語講座」「ハングル講座」が各初級・中級の4コース、「スペイン語講座」が初級の1コース、計5コースを実施しました。

「ふれあい講演会」と「日本文化紹介講座」は、あいフェスティバル'95のため、10月、11月を除いて毎月1回実施しました。

ふれあい講演会

地球市民時代といわれるように、岡山でもさまざまな国の人が住んでいます。世界の人々と共に生きるために、それぞれの交流体験に基づいた考え方を話してもらいました。



4月

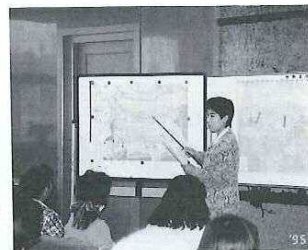
三宅正勝さん

「いままでの国際理解
これからの国際理解」

5月

田島 恵さん

「やればできる
～私の異文化体験～」



6月

ザビネ・コッペさん

「ドイツ人から見た
岡山」

7月

伊東靖太さん

「国際化への門出
～北京修学旅行～」



8月

近藤由規さん

三上陽子さん

「牡丹咲く洛陽の一年」

9月

林 一圭さん

「歴史の中で見た
韓国と日本」





12月

ジェームス・ナカモトさん
「日系人から見た
アメリカと日本」



1月

庄司恵雄さん
「留学生相談
という仕事」



2月

ジェーン・オハロランさん
「私の国アイルランド」



3月

片山主計さん
「世界の人びとと
共に生きるために」

日本文化紹介講座

外国人により深く日本を理解してもらうために、日本人の生活に生きる伝統文化を具体的に紹介しました。今年は新しく「着つけ」を取り上げました。



4月

「生け花」

尼寺裕子先生

生け花にも
基本があります。

5月

「茶 道」

佐治宗光先生

茶杓はこう持ちます。



6月

「合気道」

竹村玄山先生

こう押さえると
相手は立てません。

7月

「着つけ」

坂本紀子先生

帯の結び方がむずかし
い。





8月

「折り紙」

沢まさこ先生

はい、次はこう折ってください。

9月

「書道」

木村明美先生

私たちの作品です。



12月

「餅つき」

畠瀬恵美子先生

日本でも白でつく家は少なくなりました。

1月

「投扇興」

田中克郎先生

この的をねらって扇を投げます。



2月

「巻ずし」

畠瀬恵美子先生

のりの食べられない人は卵焼きで巻いてください。

3月

「箏」

大月宗明先生

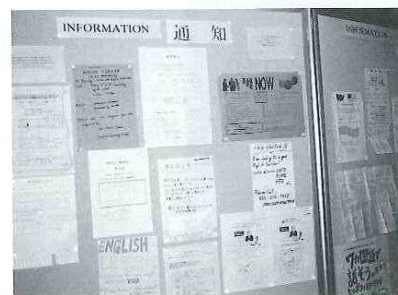
箏も五線譜で習えます。



情報紙「あくら」と「情報コーナー」

5か国語で生活情報を提供している「あくら」は隔月に発行しており、今年度も6回出しました。どういう情報が外国人に喜ばれるか、ボランティア編集員と協力して、手づくりで作成しています。

「情報コーナー」には、英会話教師の募集、講演会のお知らせ、各種セミナーの案内、サヨナラセールなどのインフォメーションがいっぱいです。情報を発信する人と求める人のささやかな仲立ちとなっています。



語学講座と日本語教室



中国語講座 初級

鳥越崇昌先生

中国語講座 中級

張 建華先生



スペイン語講座

マルレーヌ・タシマ先生



ハンゲル講座 初級

崔 泰順先生

ハンゲル講座 中級

林 一圭先生

日本語教室

日本語の程度がさまざまなのでクラス分けを行っています。



絵や実物によって理解を助けます。

国籍もさまざまな人が学んでいます。

